

二宮洗三ほか, 1974: 梅雨末期集中豪雨研究報告, 気象庁技術報告, 86.  
 山本 晃, 1965: 上川地方を主とした降雨塊についての解析とその特性, 天気, 12, 5-11.  
 山本 晃, 1967: 北海道北部の大雨特性について,

昭和42年度北海道地方予報技術検討会資料, 旭川地方気象台, 20-30.  
 山本 晃, 1968: 大雨パターンの地域モデルの検討, 昭和43年度北海道地方予報技術検討会資料, 旭川地方気象台, 13-19.

## 第20期第17回常任理事会議事録

日時 昭和55年3月10日(月) 10.00~12.30

場所 気象庁観測部会議室

出席者 小平, 浅井, 内田, 植村, 奥田, 関根, 新田, 松本, 増田.

報告 [庶務]

- 2月22日, 日産科学振興財団理事長 川又克二氏から, 学術研究助成の決定通知ならびに研究助成金贈呈式の案内がきた(当学会推薦の京都大学加藤進会員が受領された).
- 2月25日, 日本証券奨学財団から, 昭和55年度研究調査助成の募集案内がきた(申請期間3月1日~4月末日).
- 2月28日, KDD エンジニアリングアンドコンサルティング理事長大島信太郎氏から昭和54年度国際通信研究奨励金について案内がきた(締切4月30日).
- 3月5日, 地球化学研究協会理事長 三宅泰雄氏から, 1980年度学術賞「地球化学研究協会三宅賞」の受賞候補者の推薦依頼がきた(締切9月6日).

[会計]

- 「天気」2月号に, 会計委員会からここ1~2年の学会の財政状況を述べ, 会員各位の理解と協力を呼びかけた.
- さきの理事会で承認された来年度の予算案(第2次)は3月末の決算で訂正したい.
- 春の総会に提案予定の学会費値上げの理由を「天気」3月号で周知させる.

[天気]

- 「本だな」に書店から依頼されて書評を書いた場合は, その方が本を貰うようにする.
- 外国から単行本で参考になるものがきたら理事会に提出すること.

[気象集誌]

- 1982年の100周年記念特別号を出すためには, 編集を1981年末か82年のはじめにしなければならないため, レフリーの期間(4~5月)をも考慮して1981年7月末を締切としたい. 従って, 応募要領を春(4~5月)に「集誌」に英文でまた「天気」に和文で出したい.
- 昨年暮福岡の九州大学で日・米のセミナーがあり, 研究発表が行われたが, そのアブストラクトを印刷頁4頁, 10編余り「集誌」に掲載したい.

[気象研究ノート]

第138号「梅雨前線帯の豪雨」が納本になった. 次は, 「気象レーダー」, 「エネロゾル」, 「気候変動シンポジウム」の順で刊行したい.

[講演企画]

2月29日講演申込を締切ったが216編の申込があった. 例年より多く特に総観気象が増えた. 時間を延長し17時30分までとした.

[各賞]

岡田賞受賞候補者として, 予報防災業務の発展に貢献した宮沢清治会員を推薦したい. 今後学会として推薦することを原則とすることを了承した.

[教育と普及]

今年の夏季大学は7月28日~31日で, 日本教育会館で, テーマは台風として行うことになった.

議題

1. 昭和55年度学会賞・藤原賞受賞候補者の推薦について

選考委員松本理事から選考経過の概要説明があった. 沢田担当理事からの選定理由書が未着であるが, 提出があり次第全理事の書面審査を受けることとなった. なお, 候補者として推薦されたものは次のとおりである.

日本気象学会賞候補者

新田 勲（東京大学理学部地球物理学教室）

積雲対流と大規模運動の相互作用に関する解析的研究

藤原賞候補者

小倉義光（米国イリノイ大学気象学教室）

気象力学の発展および教育・普及に尽した功績

2. 広告取扱業者㈱科学技術社との契約更新について

毎年2月が契約更新の時期に当り今年も各頁とも5,000円の値上げとし、新規の広告主に対する広告料は、4月号掲載の分から適用し、また従来からの

広告主に対しては9月号からとするよう了解事項が申し合わされた。

3. 100周年記念事業について

小平準備委員長から、さる2月18日に行われた準備委員会の結果について報告があった。新提案についていろいろと論議されたが、次回の理事会で外国へ出張された岸保理事長、および新田理事からの報告を受けて検討することになった。

4. その他 春季大会での山本賞受賞式に故山本義一氏未亡人に出席して貰うことについて、東北大学の田中正之理事に意向を打診して貰うことにした。

承認事項 永田敏夫ほか16名の新入会員を承認